

第22週の発生動向(2006/5/29~2006/6/4)

1. 伝染性紅斑については、五所川原保健所管内で第16週から**警報**が継続して出されています。
2. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎については、上十三保健所管内で**警報**が前週に引き続き出されています。
3. 流行性耳下腺炎については、**注意報**が上十三保健所管内で第19週から、むつ保健所では当該週から出されています。
4. インフルエンザについては、県全体では横ばい状態であり、八戸保健所管内では患者報告数が多い状態が続いていることから引き続き注意が必要です。迅速診断キットにより、むつ保健所管内では、A型:8件、B型:5件が報告されています。

第22週五類感染症定点把握

疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ	15	1.07	9	0.60	71	5.07	8	1.14	13	1.44	13	2.17	129	1.98	-1
(60) 咽頭結膜熱	1	0.11	10	1.11	2	0.22					5	1.25	18	0.43	6
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	9	1.00	6	0.67	6	0.67			22	3.67	11	2.75	54	1.29	-14
(62) 感染性胃腸炎	26	2.89	29	3.22	4	0.44	5	1.00			20	5.00	84	2.00	-46
(63) 水痘	12	1.33	12	1.33	22	2.44	7	1.40	12	2.00	1	0.25	66	1.57	-8
(64) 手足口病															-5
(65) 伝染性紅斑	4	0.44	5	0.56	6	0.67	7	1.40	7	1.17	1	0.25	30	0.71	-17
(66) 突発性発しん	6	0.67	4	0.44	6	0.67	1	0.20	9	1.50	3	0.75	29	0.69	4
(67) 百日咳															-1
(68) 風しん															0
(69) ヘルパンギーナ	6	0.67	10	1.11							1	0.25	17	0.40	13
(70) 麻疹(成人を除く)															0
(71) 流行性耳下腺炎	19	2.11	16	1.78	7	0.78	11	2.20	31	5.17	12	3.00	96	2.29	26
(73) 急性出血性結膜炎															0
(74) 流行性角結膜炎	3	1.50	1	0.33	1	0.50	5	5.00	4	2.00			14	1.27	8
(59) RSウイルス感染症	2	0.22	1	0.11									3	0.27	1
(82) マイコプラズマ肺炎					11	11.00							11	1.83	7

保健所名	定点数				
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科	基幹
青森	14	9	5	2	1
弘前	15	9	6	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	2	1	1
合計	65	42	23	11	6

■は警報 ■は注意報 「空欄」:患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (18年計には、今回届出された人数を含む)

(29) つつが虫病(五類全数把握疾患) 弘前保健所管内:1人 むつ保健所管内:1人 (18年計5人)

感染症の窓

流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)

流行性耳下腺炎の県内の状況は、5月第19週から特に上十三、むつ保健所管内において増減を繰り返しながら緩やかな増加傾向にあります(図2)。年齢別では、3~5歳に多く見られます(図1)。

病原体は、ムンプスウイルスで患者唾液の飛沫による感染症です。潜伏期間は2~3週間です。ウイルスは耳下腺が腫れる前から、また、腫脹がある間はウイルスの排泄が多いので、腫れが消えるまで注意が必要です。治療は対症療法で、予防にはワクチンがあります。

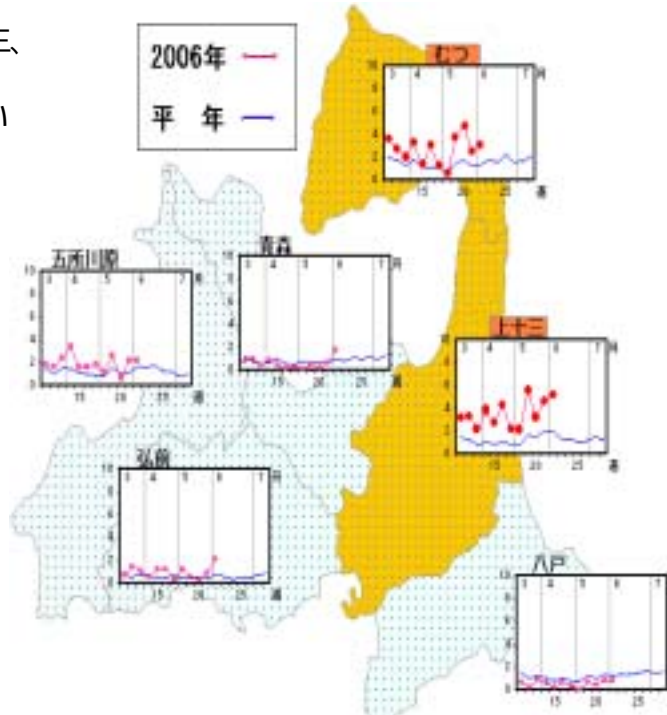
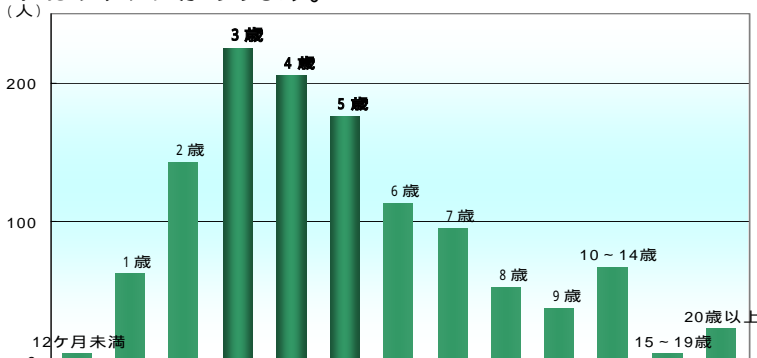


図1. 青森県の2006年年齢別構成(第1週~22週の患者数)

図2. 保健所別報告数推移(2006年)